

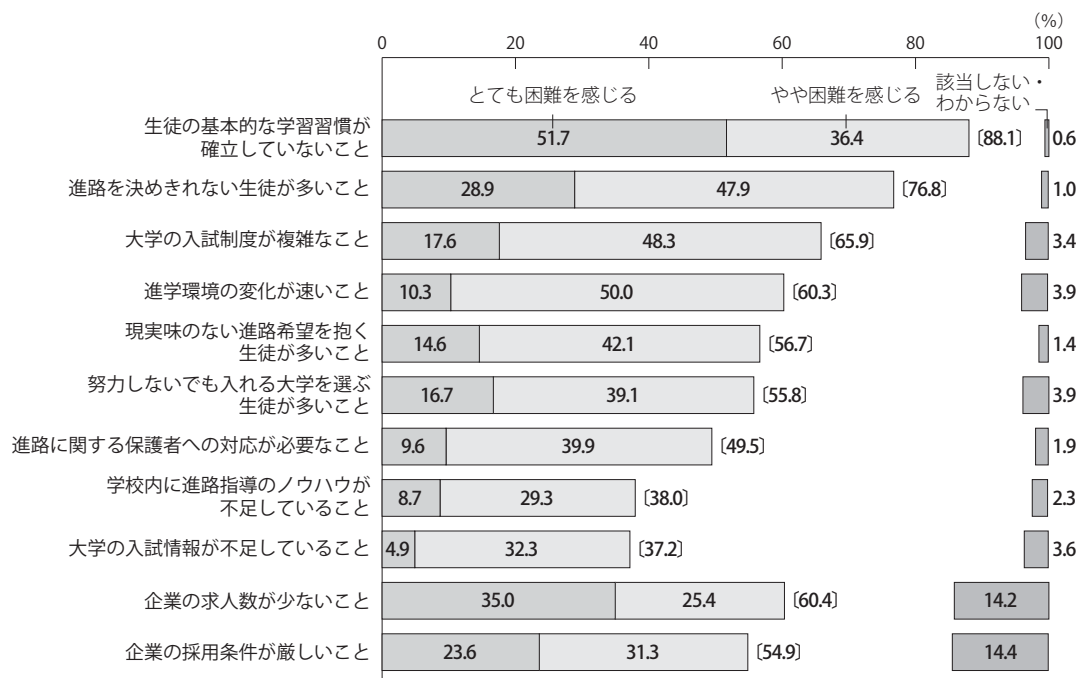
第6章

教員の進路指導に関する課題意識

第1節 進路指導を行う上で困難に感じること

88.1%の教員が「生徒の基本的な学習習慣が確立していないこと」、76.8%の教員が「進路を決めきれない生徒が多いこと」を、進路指導を行う上で困難に感じている。普通科C・Dグループ、総合学科では、9割弱の教員が「進路を決めきれない生徒が多いこと」、7割弱が「現実味のない進路希望を抱く生徒が多いこと」に対して困難を感じている。

図6-1-1 生徒の進路指導を行う上で困難に感じること【教員調査】(全体)



注1)〔 〕内は「とても困難を感じる」+「やや困難を感じる」の%。

注2)「企業の求人数が少ないこと」「企業の採用条件が厳しいこと」の2項目については、「該当しない・わからない」と回答した比率が一定数存在することから、一番下にまとめて示した。

教員に、生徒の進路指導を行う上でどんなことに困難を感じているかをたずねたところ、88.1%の教員が「生徒の基本的な学習習慣が確立していないこと」に「困難を感じる」(「とても困難を感じる」「やや困難を感じる」の合計、以下同)と回答しており、もっとも高かった(図

6-1-1)。「とても困難を感じる」と回答した比率は51.7%と半数を超えていることから、多くの教員が困難に感じている点と推察される。「進路を決めきれない生徒が多いこと」に「困難を感じる」教員の比率も76.8%と2番目に高くなっている。

表6-1-1 生徒の進路指導を行う上で困難を感じること【教員調査】

	(%)									
	全体 (n=3,070)	普通科 (n=2,228)	Aグループ (n=246)	Bグループ (n=976)	Cグループ (n=507)	Dグループ (n=308)	総合学科 (n=227)	専門学科 (n=512)	工業 (n=229)	商業 (n=164)
生徒の基本的な学習習慣が確立していないこと	88.1	87.6	66.7	87.4	95.5	95.1	94.7	88.9	89.1	86.6
進路を決めきれない生徒が多いこと	76.8	77.4	56.5	75.0	86.8	87.4	85.9	71.9	67.3	73.2
大学の入試制度が複雑なこと	65.9	68.8	70.0	73.3	65.8	55.2	66.5	52.7	49.7	58.0
進学環境の変化が速いこと	60.3	63.4	65.0	67.2	60.7	52.3	58.2	47.8	42.0	54.9
現実味のない進路希望を抱く生徒が多いこと	56.7	56.4	40.3	52.1	66.2	68.9	67.4	54.3	52.9	53.1
努力しなくても入れる大学を選ぶ生徒が多いこと	55.8	55.6	26.1	57.0	69.0	57.1	63.0	53.4	50.6	57.3
進路に関する保護者への対応が必要なこと	49.5	48.9	33.3	45.1	57.2	62.1	56.8	50.0	45.0	52.4
学校内に進路指導のノウハウが不足していること	38.0	37.8	26.0	36.6	43.8	43.2	42.8	36.4	35.8	36.0
大学の入試情報が不足していること	37.2	37.6	35.8	39.0	38.6	34.4	38.8	36.0	35.8	38.5
企業の求人数が少ないこと	60.4	55.1	10.6	43.6	80.8	89.9	82.8	75.2	60.3	85.9
企業の採用条件が厳しいこと	54.9	49.9	9.4	39.5	72.4	83.5	75.3	69.3	61.6	73.8

注1) 「とても困難を感じる」 + 「やや困難を感じる」の%。

注2) ○は全体よりも5ポイント以上、●は10ポイント以上高いものを示す。

注3) □は全体よりも5ポイント以上、■は10ポイント以上低いものを示す。

注4) 「企業の求人数が少ないこと」「企業の採用条件が厳しいこと」の2項目については、「該当しない・わからない」と回答した比率が一定数存在することから、一番下にまとめて示した。

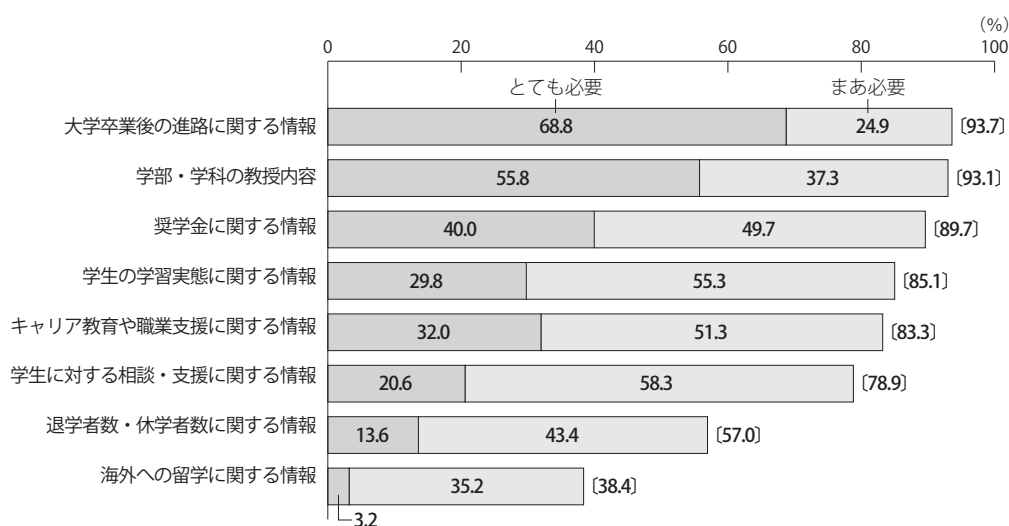
学校種別にみても、普通科C・Dグループ、総合学科では、9割弱の教員が「進路を決めきれない生徒が多いこと」、7割弱が「現実味のない進路希望を抱く生徒が多いこと」に対して困難を感じている(表6-1-1)。普通科C・Dグループ、総合学科、専門学科の教員

は、「企業の求人数が少ないこと」や「企業の採用条件が厳しいこと」に対して、全体平均より10ポイント以上も「困難を感じる」と回答した比率が高い。高卒就職の厳しさが増していることがその背景にあると思われる。

第2節 進学指導の際に必要な情報

生徒の適切な進学先選びを支援する上で、93.7%の教員が「大学卒業後の進路に関する情報」が「必要」（「とても必要」「まあ必要」の合計）と回答している。「とても必要」と回答した教員の比率は7割に迫ることから、多くの教員が必要と感じている点であることがうかがえる。学校種別にみても、「海外への留学に関する情報」以外の項目については、全体的に大きな差は確認されなかった。

図6-2-1 生徒の適切な進学先選びを支援する上で、大学に関して必要な情報【教員調査】（全体）



注) [] 内は「とても必要」+「まあ必要」の%。

教員に、生徒の適切な進学先選びを支援する上で、大学に関してどのような情報が必要かをたずねたところ、93.7%の教員が「大学卒業後の進路に関する情報」を「必要」（「とても必要」「まあ必要」の合計、以下同）と回答しており、

もっとも高かった（図6-2-1）。「とても必要」と回答した比率は68.8%と7割にも迫ること、また「必要」と回答した比率は学校種によって大きな差がないことから、多くの教員が共通して必要と感じている点と推察される。

表6-2-1 生徒の適切な進学先選びを支援する上で、大学に関して必要な情報【教員調査】

	全体 (n=3,070)	普通科 (n=2,228)	Aグループ (n=246)	Bグループ (n=976)	Cグループ (n=507)	Dグループ (n=308)	総合学科 (n=227)	専門学科 (n=512)	工業 (n=229)	商業 (n=164)
大学卒業後の進路に関する情報	93.7	93.8	94.7	93.8	94.7	92.9	92.1	93.7	92.6	93.9
学部・学科の教授内容	93.1	93.3	93.9	93.8	93.5	90.9	91.2	92.3	92.6	90.8
奨学金に関する情報	89.7	90.0	90.2	89.2	91.4	91.5	88.1	89.9	87.8	93.2
学生の学習実態に関する情報	85.1	86.0	85.4	85.7	88.4	83.1	81.9	82.8	81.2	85.9
キャリア教育や職業支援に関する情報	83.3	83.4	84.2	83.1	84.8	80.9	80.6	84.9	82.6	86.6
学生に対する相談・支援に関する情報	78.9	78.9	77.2	79.0	81.1	76.9	77.6	80.4	79.1	84.8
退学者数・休学者数に関する情報	57.0	56.4	48.4	58.1	57.0	56.5	57.3	57.5	56.7	57.3
海外への留学に関する情報	38.4	40.7	51.6	44.6	34.7	25.3	39.7	26.8	23.1	30.5

注1) 「とても必要」＋「まあ必要」の%。

注2) ○は全体よりも5ポイント以上、●は10ポイント以上高いものを示す。

注3) □は全体よりも5ポイント以上、△は10ポイント以上低いものを示す。

学校種別にみても、「海外への留学に関する情報」を「必要」と回答した比率は、普通科Aグループで51.6%ともっとも高く、普通科Dグループや専門学科で2割台ともっとも低くなっている(表6-2-1)。しかし、その他の項目については、全体的に学校種ごとに大きな差は確認されなかった。とくに「大学卒

業後の進路に関する情報」のほか、「学部・学科の教授内容」「奨学金に関する情報」「学生の学習実態に関する情報」「キャリア教育や職業支援に関する情報」については、学校種の間で5ポイント以内の差にとどまったことから、多くの教員が共通して必要と感じている情報と考えられる。